

## 清 河 塾

清河八郎（本名：齋藤正明）は、その生涯の中で江戸に3度塾を設けました。

最初の塾の開塾は安政元年（1854年）12月に現在の神田三河町二丁目裏に「経学・文章指南 清河八郎」の看板を掲げましたが、半月もたたない同年12月29日、連雀町から出火し、清河塾はあっけなく火事で消失してしまいました。（藤沢周平（1986）『回天の門』文藝春秋社 文春文庫 p.166-167）

その後、安政4年（1857年）8月、駿河台淡路坂のほとりに2度目の塾を開きましたが隣家からのもらい火で焼け、門と台所を僅か残して再び焼失してしまいました。（藤沢周平（1986）『回天の門』文藝春秋社 文春文庫 p.253）

再度塾再建のための物件探しを始め、安政6年（1859年）に北辰一刀流の道場、玄武館にも近く、清河が一時書を習いに通った生方鼎斎の屋敷跡に江戸で唯一の文武両道を謳った清河塾を開塾しました。（藤沢周平（1986）『回天の門』文藝春秋社 文春文庫 p.257 - 266）

しかし、三度目の開塾にこぎつけた頃は、折しも井伊直弼が日米通商条約に勅許なしで調印し、貿易が始まり物価が急上昇する中で、尊王攘夷派、佐幕派、討幕派が入り乱れ、穏やかに経学や剣術を学ぶような時代の趨勢ではなくなっていました。清河塾には尊王攘夷派が集まるようになり、秘密裏に「虎尾の会」が結成され、やがて清河は討幕に向かって動いていくこととなります。

- ◆ 清河塾① 神田三河町二丁目（現在の内神田一丁目～内神田二丁目付近）  
JR 神田駅西口から西口商店街を直進、徒歩5分
- ◆ 清河塾② 駿河台淡路坂付近（現在の神田淡路町付近）  
昌平橋…外神田一丁目～神田淡路町二丁目  
御茶ノ水駅聖橋口より徒歩3分  
秋葉原駅電気街口より徒歩8分  
淡路坂（標柱）…神田駿河台四丁目  
御茶ノ水駅聖橋口より徒歩1分  
新御茶ノ水駅 B2 出口より徒歩1分

◆ 清河塾③ 神田お玉ヶ池付近（現在の岩本町付近）

繁栄お玉稲荷神社…岩本町 2-5

都営新宿線「岩本町駅」A5 出口徒歩 3 分

東京メトロ日比谷線「伝馬町駅」4 出口徒歩 5 分

千葉周作玄武館跡・東條一堂の瑶池塾跡…神田東松下町 22・旧千桜小学校

都営新宿線「岩本町駅」A5 出口徒歩 5 分

◆ 神田三河町二丁目



旭町の看板  
(現在の三河町二丁目の位置は赤丸近辺)



かつての三河町二丁目（現在の神田西口商店街の外堀通り側からの入り口付近）



現在の出世不動尊

◆ 駿河台淡路坂



現在の昌平橋



昌平橋から淡路坂方面を撮影



坂を上りきったところにある  
淡路坂の標柱

◆ 神田お玉ヶ池付近



浮世絵に描かれたお玉ヶ池



現在の繁栄お玉稲荷神社



清河も通った、北辰一刀流の  
玄武館・遥池塾跡

作成：2019.8.30